

第5回

新町の名称に関する専門委員会

会 議 資 料

南部町・南部川村合併協議会

日 時： 平成 15 年 5 月 13 日（火）

場 所： 南部町役場 2 階 研修室

第5回新町の名称に関する専門委員会

1. 開 会

2. 委員長あいさつ

3. 議 題

協議事項

協議第3号 新町の名称候補の選定について

4. その他

5. 閉 会

新しい町の名称選定について

協議経過

平成 14 年 12 月 11 日	第 1 回新町の名称に関する専門委員会 名称の選定方法について
平成 15 年 1 月 15 日	第 2 回新町の名称に関する専門委員会 名称に関するアンケートについて
平成 15 年 1 月 23 日	第 3 回新町の名称に関する専門委員会 協議会への報告について
平成 15 年 1 月 23 日	第 3 回南部町・南部川村合併協議会 選択式アンケート実施が承認される
平成 15 年 2 月 11 日 ~	アンケート用紙の配布開始 両町村の区長に依頼
平成 15 年 2 月 28 日	アンケート締め切り
平成 15 年 3 月 3 日	アンケート集計作業開始
平成 15 年 3 月 10 日	第 4 回新町の名称に関する専門委員会 アンケート結果について
平成 15 年 3 月 27 日	第 4 回南部町・南部川村合併協議会 協議会委員の意見を聞く
平成 15 年 5 月 13 日	第 5 回新町の名称に関する専門委員会

協議会でこんな意見が出ました

協議第3号の2

新町の名称について

(継続協議)

公共的施設には、「南部」という漢字が出ていないのと(南部駅等)梅も「南部の梅」として全国的にも有名であり、これからも「南部町」という名前を売っていくのが我々の使命であると感じます。私個人としては「南部町」という漢字を使えればと思います。

よそへ出かけた時には、「南部(みなべ)」となかなか読んでもらえませんが、一回覚えてもらおうと忘れられることもなく、そこからうち解けて親しくなってきたという関係ができています。又、ここ何年か

前までは子供の名前にひらがなの方が多かったんですが、ここへ来て「何て読むんやろ」というような漢字でつけられて、他にないインパクトのある名前が覚えてもらおうという方が多くなっているように思います。そういう意味で「南部」という言葉、インパクトがあつて良いんじゃないかと思っています。

よそではなかなか漢字で「南部(みなべ)」と読んでもらえないというのが、子供の頃から気になつていました。「なんべ」と呼ばれるのが一番多いです。南部高校、南部駅、南部平野、河川の南部川等漢字で残るものもありますので、この際ちょうど良い機会ですので、ひらがなにしたらどうか

と思っています。

と思っています。

アンケートを出す前には、結果にはこだわりませんということでしたが、アンケートをとった以上、それを重視すべきだと思います。そうでないとこの先、何のアンケートをとつても「先に決めてるものだったら、どうでもいい」ということになるおそれもありますので、ひらがなを希望します。

歴史・伝統、漢字の持つ意味・意義を考えると、このアンケートには沿わないかもわかりませんが、漢字の「南部」が良いと思います。漢字にするこ

うことの重要さは、結構大きいものかなと思います。

協議)

先日、芥川賞作家の池澤夏樹先生の講演を聞いたのですが、地名は漢字の方が良いということで、北海道には内と別という字の地名が多く、例えば「稚内」とか「紋別」とか、どっちも川という意味らしいです。「昔は響きで地名があつたのを、それを漢字に当てた」ということらしいです。

それから、地名を売り物にしてはいけない。というのは、商業地名と言って開発業者が分譲地を売りたいために、「希望ヶ丘」とつけたりするということ、そういう安易な気持ちでつけてはいけないと言われてました。それで、今までひっそりと漢字が良いなと思つていましたが、自信が持てました。

農業委員については、農地面積によって人数が決まると思われるので、南部町と南部川村の農地面積、それから選挙ということですが、今まで農業委員の選挙はなく、地区推薦のような形でされてきたので、2町村の委員の割り振りというかその辺をお聞きしたいのですが。

小谷事務局長
農地面積については、南部町七〇四ha 南部川村一、五一九ha 合計二、二二三haとなります。次に農家数ですが、南部町五二一戸 南部川村一、一三七戸 合計一、六五八戸という状況です。
それから、選挙で選ばれる委員ですが、これはあくまでも公職選挙法に基づいて立候補して頂いての選挙という形なので、この場ではここまでの回答しかできません。

協議第10号の1

農業委員会の定数及び任期の取扱いについて(継続

池澤夏樹先生講演会（地名に係る部分）

平成15年3月21日
南部川村保健福祉センター
（第7回読書講演会）

静内の地名、語源はいくつかの説があって決めかねているんですが、アイヌの地名は全部地形からきています。これこれこういう場所という意味で、自然そのものをうまく読んでます。

例えば、北海道には内と別が多いんですね。耳で聞くとよくわかると思いますが、真駒内、中札内、稚内、静内、みんな内がつきますね。それから、当別、幕別、然別、紋別、と別がつく。どっちも川なんです。別はぺっという音なんです。内も、川として何か形が違う区分けがあるらしいですが、詳しく知りませんが。地形そのものをうまく読み込んで、いかにその土地と人が親しく暮らしてきたかわかるような地名です。

それに無理に漢字を当てはめたから、ちょっとおかしいことになってますけど、元の響きで聞くと意味がわかってくる。

そういう意味では地名は非常に大事なもので、今までの人の生き方、その土地に住んできた人、全部の知恵が入ったようなものですね。

と、思ってきたところ、今日ここに来ましたら、「土地と心に刻まれた南部の歴史」というパンフレットを頂きまして、ここで昔からの地名がどういうものであったか、一つ一つもう一回確かめて、地図のように載せていくという、そういう作業進めているという話を聞いて、なかなか感動しました。

地名は、どんどんおろそかにされています。特に商業地名と僕は呼ぶのですが、団地を造る。例えば開発業者があるところに家をたくさん造る。売りたいから、「希望ヶ丘」という名前をつける。希望もなけりゃ、お金もないんですそんなところには。そういう、由来のない、何の意味もない、見た目だけ、聞いた目だけの地名がどんどん増えている。それだけ人が土地から引き離されていくんです、浮いてしまう。それに対して、長年使ってきた地名は、その性格を読んで、歴史を読んで全部がこもっているわけですから、とても大事なものです。それをこんなに簡単に捨てて、どこもかしこも希望ヶ丘にしているのかということをもう一回、考え直すよすがとして、この南部の歴史のパンフレットはすごくおもしろいと思いました。ここまで来て、こういうものに出会って、なかなかうれしい気持ちだったので。

池澤夏樹 : 作家

- 1945 北海道帯広市に生まれる。
- 1968 埼玉大学理工学部物理学科中退
- 1975 この年から3年ギリシャに暮らす。
- 1987 『スティル・ライフ』で中央公論新人賞受賞。
- 1988 『スティル・ライフ』で第98回芥川賞を受賞。
- 1992 『南の島のティオ』で小学館文学賞。
- 1993 『母なる自然のおっばい』で読売文学賞。
『マシアス・ギリの失脚』で谷崎潤一郎賞。
- 1994 沖縄に移住
『楽しい終末』で伊藤整賞。
- 1996 『ハワイイ紀行』でJTB出版文化賞受賞。
- 2000 『花を運ぶ妹』で毎日出版文化賞。
- 2001 『すばらしい新世界』で芸術選奨。